

一九五二年四月二十五日
発行



第35卷 第1号

史学・地理学・考古学

- フランス革命と人権宣言……………前川貞次郎(1)
- 老荘の自由思想……………村上嘉実(38)
- 明治教育史の思想的背景……………大石良材(56)

書評と紹介

- 中沢見明著「真宗源流史論」……………赤松俊秀(80)
- 石田一良著「文化史学の理論と方法」……………中村二柄(82)
- C. P. Loomis : Rural Social Systems……………木地節郎(83)
- J. A. Beegle : Rural Social Systems……………木地節郎(83)
- H. Meyer : Karl Marx und die Deutsche
Revolution von 1848……………岡部健彦(87)

報 載

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

東京大学文学部史学専攻
史学研究会
東京大学文学部史学専攻
史学研究会
東京大学文学部史学専攻
史学研究会

会 告

陽春の候、会員各位には益々御健勝のことと存じます。

本会も各位の御支持により發展をつづけ、厚く御礼申しあげます。さて本会誌「史林」の出版は、従来教育タイムス社に一任しておりましたが、今回、同社の諸事情よりして、同社の手を完全にはなれ、本会にて独立して発行することになりました。昨年は予定の如く刊行できず、各位に多大の御迷惑をおかけして、誠に申訳なく、深く御詫び申しあげます。今更申すまでもなく、本会には基金というものが全くなく、「史林」の刊行、その他の事業は、すべて会費によつて運営しなければなりません。今後「史林」を定期的（年四回）に発行しうるか否かは、会員各位の会費納入如何によつておりますので、此際何卒未納の会費はもろろん、できれば本年度分会費（四百円）を至急に御払込み下さるよう、御願ひ致します。尙会費は直接史学研究会宛御払込み下さるべく、同封の振替用紙を御利用下されば幸甚に存じます。最後に今後とも益々御支援下さるよう重ねて御願ひ申し上げます。 敬白

一九五二年四月

京都大学文学部内

史 学 研 究 会

振替口座大阪一四五五六番

会 員 各 位

史学研究会春季大会

「歴史・地理教育の問題」講演討論会

とき 一九五二年五月一日（日）午前九時—午後四時

ところ 京都大学文学部 第七・八・九教室

午 前 の 部——第八教室

はじめのことは

講演と討論

1 小中学校における歴史教育の問題点 梅田 勇（松原中教諭）

2 日本史教育の歴史と現状 大石良材（鴨沂高教諭）

3 入試制度と入試問題 山本 実（洛北高教諭）

4 人文地理教育の諸問題 芦田 完（福知山高校長）

5 歴史教育論 井上智勇（京大教授）

司会者 京大史学科関係教官 理事長 原 隨（京大教授）

あいさつ

午 後 の 部 部会討論会と総合討論会

1 日本史部会 司会者 小葉田（京大）林屋（立命大）その他

2 世界史部会 司会者 井上（京大）里井（京大）その他

3 人文地理部会 司会者 織田（京大）辻田（奈大）その他

4 総合討論会 司会者 田村（京大）会田（京大）

おわりのことは

求する。

第2条 人間および市民のすべての義務は、自然によつて各人の心にとえられた、つぎの二つの原理からである。すなわち、他人にしてほしくないことは、他人にするな。他人からうけたいと思ふ善を、他人につねに行なえ。

第3条 社会に対する各人の責務は、社会を守り、社会に奉仕し、社会に従つて生活し、その代理人である人々を尊敬することである。

第4条 何人も、よき息子、よき父、よき兄弟、よき友、よき夫でなければ、よき市民ではない。

第5条 何人も法律に心から敬意に従うものでなければ、よき人間ではない。

第6条 法律を公然と侵す人は何人も社会に対して、みづから戦を宣するものである。

第7条 法律を公然と侵すことなしに、巧妙に法律をくぐるものは、何人もすべての人の利益を害するものである。彼はみづからを、すべての人の善意と尊敬とに値しないものとしている。

第8条 土地の耕作、全生産物、労働手段、および全社会秩序は、所有権の維持に基づく。

第9条 市民はすべて祖国に、また自由、平等、財産の維持に奉仕しなければならない。法律がそれらを守るべく市民を召集するときは、

史林 前号目次(三四卷四号)

近世銀山の領有機構

小葉 田 淳

グプタ朝印度社会の一考察

佐藤 圭 四郎

ドイツ帝国と文化闘争

広 実 源 太 郎

氣候馴化論の学史的背景

和 田 俊 二

〔学界展望〕 中国的封建社会への展望

池 田 誠

〔書評〕 「東洋的近世」(宮崎市定著) 荒木敏一、

「近代における西洋人の日本歴史観」(牧健二著)

柴田実、「モヨロ貝塚資料集」(米村嘉男衛著)

坪井博足

史林 次号豫告(三五卷二号)

溜池灌漑地域における用水分配と農村社会

喜多村 俊 夫

奈良と堺

永 島 福 太 郎

一八世紀英国農村における封建性の残存

新 井 嘉 之 作

西漢官僚の政治思想

江 幡 真 一 郎

越前国東大寺領庄園の経営

岸 俊 男

六朝に分裂した諸傾向は、一面外來文化を受けいれしめ、隋唐にいたつて一種のコスミカルな文化を形成するのであるが、中國が外來思想を受容する精神の基底には、つねに老莊の虛無思想がはたらいっていることを忘れてはならぬ。

老莊は近世に入ると、儒教・佛教と融合して、共通の現實觀の上に立つようになつた。儒・佛と老莊との融合的傾向はすでに六朝時代から起つてゐるが、そこにおいて老莊の占める位置は、やはり融合の樞軸となることである。老莊はみずからは形をもたず、三者融合の場合は老莊が消滅した如き様相を呈するのであるが、實はその人の日々の態度において最も多くを支配するものは老莊の自由思想であり、近世の文化藝術にかかる老莊の自由精神が如何に作用しているかを知ることが、中國精神史上の重大な問題である。

中國古代に成立した格は、爾來二千年を通じて、最近世の西洋の新文明に接觸するまでつづいた。それに對して逸は、古代においてすでに現れてゐるけれども、中世において最も盛んに現れた。即ち中國の中世は古代の格に對して、

逸的時代であるということができる（この際古代以來の格が中世を通して近世までも貫いていることは特に注意されなければならぬ）。この中世に盛行した逸が、主として文面から強く作用して、次の時代に一般化し、すでに次第に縮少しつあつた古代以來の格と融合して、新しい「逸的な格」を形成していつたのが近世であると見るべきである。

執筆者紹介

- | | |
|--------|-----------|
| 前川貞次郎氏 | 京都大学助教 |
| 村上嘉実氏 | 京都大学講師 |
| 大石良材氏 | 鴨沂高校教諭 |
| 赤松俊秀氏 | 京都大学助教 |
| 中村二柄氏 | 京都学芸大学助教 |
| 木地節郎氏 | 同志社女子高校教諭 |
| 岡部健彦氏 | 奈良女子大講師 |

権運動のうちに求められるべきであらう。

- ① 能勢栄著「新教育学」(一八九四年刊叙言、一頁。)
- ② 漢加斯底爾訳『彼日氏教授論』(「明治文化全集」第十卷、一四六頁。)
- ③ 能勢栄「新教育学」叙言、五頁。
- ④ 清水幾太郎「日本文化形態論」四一頁以下。
- ⑤ 遠山茂樹『民法典論争の政治史的考察』(「法学志林」第四十九卷、第一号、七一頁。)
- ⑥ 同上書、七二・七三頁。
- ⑦ 石川旭山編『日本社会主義史』(「明治文化全集」第二十一卷、三四七頁。)
- ⑧ 三宅雄二郎述『真善美日本人』(「明治文化全集」第十五卷、四三八頁。)
- ⑨ 同上書、四四三頁。
- ⑩ 三宅雄二郎述『偽悪醜日本人』(「明治文化全集」第十五卷、五一三頁。)
- ⑪ 同上書、五一八・五一九頁。
- ⑫ 玉城肇著「明治教育史」三二・三三頁。
- ⑬ 『教育令制定理由』(「明治文化全集」第十卷、三八六頁。)
- ⑭ 「明治学制沿革史」九七五頁。
- ⑮ 「資料日本社会運動史」第一卷、一四六頁。
- ⑯ 大隈重信『開國五十年史論、開國以後の発展』(「開國五十年史」上巻、六二・六三頁。)

明治教育史の思想的背景

⑮ 植木枝盛『民権自由論』(「明治文化全集」第五卷、一九三・一九四頁。)

お知らせ

今般「史林」の独立刊行にともない、
会費は年額四〇〇円(一冊一〇〇円)と
改められました。別刷の振替用紙でお払
い込み下さるようお願い致します。
なお既にお払い込み済みの方の超過分
は、新会費に換算して計算致します。ま
た、もし不足分のある方は、既に通知し
てある筈ですが、至急お払い込み下さる
ようお願い致します。

を展開することであつたというのが本論文の
中核的な主張であり、その説明以上の何もの
でもない。かくて三月革命に於けるマルクス
の位置づけが我々にとつては再確認されただ
けであり、新しいマルクス解釈も、三月革命
の意義も本論文から見出されなかつたといつ

てもよい。ドイツ正統史学の社会主義研究の
立遅れが如何に甚しいものであつたかとい
うことが、伝統古い此の雑誌に此の程度の論文
が今日でも掲載され得るといふことによつて
覗えよう。然し逆にドイツ史学界に見れ
ば、かゝるマルクスや社会主義に関する論文

が此の雑誌にはじめて上梓されただけでも、
非常な進歩を示すものであると見られるかも
しれない。
—岡部健彦—

一九五二年度史学科

卒業生及び卒業論文題目

〔国史〕

- 武家政権成立に関する一考察 荒井清明
- 畿内の一向一揆に関する一考察 石田善人
- 渡辺華山について 大月明
- 一四世紀日本の帝政 佐藤利夫
- 幕末貿易史の研究 杉井六郎
- 日清戦争について 平田治
- 加藤弘之の思想に関する一考察 平林一
- 近世捕鯨業についての一考察 古谷俊夫
- 中世武士団に関する一考察 宮城駿

〔東洋史〕

- 一七世紀におけるキリスト教宣教師のトンキ
ン伝道 小玉新次郎

金代平陽府の文化の基盤としての経済

茗名厚

サヴォナローラ研究

デモステネスとヒュボクリシス

中国における近代美の萌芽

西瀬英美

デモステネスの「平和論」

〔西洋史〕

- 英国における絶対主義王政と樞密院議會 井上隆夫
- 英国における絶対主義王政と樞密院議會 井上隆夫
- 南北戦争前における Lowell 木綿工業の性格 茨木慶三
- 英国中世都市の起源について 小川与四郎
- ロシア中世史の一形態 大西晏
- アレクシス・トックビル「旧制度と革命」論 岡田章
- 一八世紀における英国議会議改革運動岡本行雄 坂井守
- 独逸初期資本主義の一形態 坂井守
- イギリスと南アフリカ 鯖田豊之
- ドイツ中世都市の成立 鯖田豊之
- Beltsorden の成立とその歴史的意義 富岡次郎

ロシア国民議會の研究

ロバート・オーウェンとその労働運動の限界

野口治郎

五世紀のヘラクレス

美濃部嘉一

Moriae Eucorum の研究

三浦春奈

〔地理〕

- 滋賀県茶業の地理学的研究 浮田典良
- 日本水産業の一性格 柿本典昭
- 大隅半島における商品生産地域の展開 勝目忍
- 工業上よりみたる加古川中流々域の特殊性 末尾至行
- 広島県の海外移民に関する二三の問題 由比浜省吾

編集後記

昨年八月、三四巻四号を發刊いらひ、ここに本号を世に贈るまで、はや半歳に余る月日が流れてしまつた。この不手際をまず私達委員は、會員ならびに読者諸賢に深くお詫びする次第である。冒頭の会告にある通り、本号から「史林」は、教育タイムス社の手を全くはなれ、独立して發刊することになつた。それだけ、營業的側面への配慮は不要となつたわけではあるが、また反面でいわゆる「学問的」にならうとして、現代的関心が、うすれることは許されない。この点、委員一同深く自戒している。

さて、本号はもと思想史特輯号として企圖していたものであり、時日を経るままに多少の改変はあつても主論文と、書評の一部にはその意圖がたつらぬかれています。巻頭の前川氏の論文は、一七八九年から九五年にかけての五つの人権宣言を、それを生んだ社会基礎と思想史的要因の上に、それらが何れもブルジョワ的性格を離れうるものでないことを示し

ている。だが重要なのは性格規定ではない。そうした性格の人権宣言ではあるが、それを一七世紀のイギリスの権利宣言や一八世紀のアメリカの諸宣言に比べると、それは国民的制約を超えた普遍的人間としての人間が、したがつてそこから自由より平等が強調される。この点を打ちだしている著者のヒューマニティは、附録として諸宣言の邦訳も附せられてゐる行届いた配慮と共に、読者に深い印象を与えるであらう。村上氏の論文は、東洋における自由思想の在り方を、東洋世界の性格の中から克明に探り出している。中国精神史という巨視的な問題意識の上に、みごとに位置付けられた力作といえるであらう。門外漢の私に適當な評言はなし難いが、日頃氏の真摯篤実の人格に接する若い後輩として、読者諸賢に味読をすすめたい。大石氏の論文は、所与の前提とされてきた現代教育思想をその根底から研究対象とした新しい視点にたつ力作である。日頃教育に真摯な熱意を傾ける氏の経験が、嚴密な学問的所論の行間に溢れて、必ずや読者の胸を深く打たずにはおかないであらう。

紙数を埋めるために、こうした妄言を繰り返してきたが、それも久々の發刊に湧く、耐え切れぬ喜びからののはしやぎなのである。願わくは、會員諸賢の御支援御協力により、再刊の緒についた「史林」が、再びつまずかぬよう古い革襪に、常に新しい酒を充してゆきたい。(門脇)

史林 (第三五巻、一号)

一九五二年四月二十五日 印刷
一九五二年五月一日 發行 定価 百円

發行所 史学研究会

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

振替大阪一四五五六番

印刷所 中村印刷株式会社

京都市下京区西七条御所ノ内東町三九

一九五二年四月二十五日
發行

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XXXV, NO. 1

MAY. 1952

中
林
第三五卷
第一号

CONTENTS

- A Comparative Study of the Five Declarations of the Rights of Man..... *Teijiro Mackawa* (1)
- Liberalism in Lao-tse and Chuang-tse
..... *Yoshizane Murakami* (38)
- A Study of Educational History during the Meiji Era
..... *Ryozai Oishi* (56)

Book Reviews

News from the Academic World

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI
(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan